

令和2年度学校評価表

島根県立出雲高等学校

【学園の指標】	
(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園	
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園	
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園	

(1)自主的な高校生活【自主自立】	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2)活気に満ちた高校生活【文武両道】	①日々の授業や探究学習に積極的に取り組むとともに、主体的・計画的な学習を行う。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に積極的に参加し、心身の成長を図る。 ③社会課題や科学技術に触れる機会を生かし、将来に向かって行動を起こす。
(3)心のふれあう高校生活【友愛協和】	①気持ちの良い挨拶を心がけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③さまざまな機会をとらえ、教職員、地域や国内外の人々と触れ合う機会を持つ。

出雲高校 キーワード&スローガン
「自立」「協働」「挑戦」
 ↓
やってみなはれ!

評価の指標(肯定的評価値の割合) A:80%以上(満足できる) B:60~79%(もう少し) C:50~59%(改善が望ましい) D:49%以下(改善が必要)

ミッション	領域	目標 (評価項目)	目標達成のための施策	主たる 担当分掌	評価 指標	自己評価					取組状況と課題	改善策	総合 評価	学校関係者評価 コメント
						目標値 [a] %	評価値 [b] %	達成指数 [b/a]	平均評点 [総和/4]	評価				
						下段は昨年もの								
一隅を照らす国の宝を育成する	環境整備	○学びやすい環境の構築 ○働きやすい環境の構築	(1) 教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職	80	100	125%	3.6	A	「出雲高等学校ランドデザイン」を作成し、全教職員の連携をより強化しようとした。教職員の自己評価では肯定的評価が昨年よりも高くなっており、高い意識をもって目標達成に取り組んでもらえたと考えた。	来年度は魅力化コンソーシアムの組織を生かして教育目標及び重点目標を共有し、協働しながら教育活動が展開されるような運営をしていきたい。	A	○前年度と比べて数値が上がっている施策があり、また、すべての施策がA評価で素晴らしい。	
			(2) PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。	総務	80	96.9	121%	3.5	A	役員や評議員の選出時期や方法を変更した初年度であり、問題点も多々指摘された。	来年度は、PTA役員や管理職と相談しながら、より実態に合った方法を模索していく年としたい。	A		
			(3) 様々な奨学金制度を紹介し、生徒・保護者にその活用を勧める。	総務	80	93.5	117%	3.5	A	奨学金の実務処理は上手く出来たが、生徒の認知度が低いのが気になる。	奨学金制度というものがあるのだという気付きを生徒に与える方策を検討したい。	A		
			(4) ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。	図書文化情報	80	96.7	121%	3.4	A	部活動の報告等個別に呼びかけ、最新の情報を提供している。更新も頻繁で充実している。	継続的に情報を発信していく。	A		
			(5) 生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。	図書文化情報	80	98.4	123%	3.5	A	コロナ関連で別枠の予算がついて、生徒、教職員のリクエストに応えることができた。	更なる追加予算がつきそうなので、周知してよい本を買いたい。	A		
			(6) 学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。	保健	80	98.5	123%	3.4	A	ICT機器関連の予算がついて、一層の充実を図ることが出来た。	機器の老朽化などが顕在化してきているので、適切な情報収集をして対処していきたい。	A		
			(7) 清潔で整った校内美化を保つよう、積極的に清掃活動を行う。	保健	80	87.7	110%	3.5	A	感染症対策として衛生環境に対する意識も高まった。	掃除の仕方がわからない生徒が増えつつあるので、粘り強く指導する。	A		
			(8) 費用対効果を考えた効率的な予算執行を行う。	事務	80	100	125%	3.6	A	今年度はコロナ対策のため補正予算(追加配分)への対応もあったが、年間を通じて各分掌、教科との連携を図り、予算要望調査や教育環境の変化を把握し、より高い効果が得られるよう計画的で効果的な予算執行ができた。	限られた予算なので、安全な教育環境の整備に特に配慮するなど、今後も費用対効果や優先順位に留意し、適正な予算執行に努めていく。	A		
	人権尊重の精神の育成	○自他を尊重する精神の育成 ○豊かな人間性の育成	(9) 生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒	80	98.5	123%	3.6	A	久徴祭を実施することができた。新しい生活様式の中での実施について、さらに検討を行っていく必要がある。	感染症対策および熱中症対策を行い、さらに充実した内容になるように工夫する。今年度の実施方法をともに検討する。	A	○今後、難しい時代になっていくので、教員の生徒一人ひとりを見る力を伸ばしてほしい。また、出雲高等学校の教育の伝統を転動して行く教職員に上手く伝えてほしい。	
			(10) 生徒が主体的に読書活動に取り組み、能動的に資料活用が出来るよう支援する。	図書文化情報	80	96.7	121%	3.2	A	前後期とも図書委員が積極的に本の紹介文を寄せてくれて、良い情報発信ができた。生徒の読書意欲をかきたてるのに一役かっただと思う。	継続的に情報を発信していく。	A		
			(11) 人権・同和教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習をとおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。	生徒	80	98.4	123%	3.4	A	ホームルーム活動や講演会など概ね計画どおりに実施できた。活動を通して差別を許さない態度が養われた。	次年度に向けて全体計画を検討していく。	A		
			(12) いじめに関するアンケートを活用し、いじめを許さない意識を醸成する。	生徒・保護者アンケートの結果を参考にした	80	100	125%	3.6	A	いじめ防止・対策委員会を定期的に開催し、いじめの未然防止・早期発見に努めた。アンケートの記名の有無を含め、委員会を中心に実態に応じて検討を続けていく。	いじめの早期発見、対応だけでなく、未然防止の観点からの取り組みが必要である。教職員間の情報共有をより強化する。	A		
			(13) 服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的生活習慣の確立にむけた指導を行う。	生徒	80	86.4	108%	3.2	A	服装指導、携帯電話の使用についての指導を行った。遅刻防止につながる挨拶運動がコロナ禍において実施できなかった。	新しい生活様式での挨拶運動のあり方や携帯電話の使用について教職員で共通理解を行う。	A		
			(14) 部顧問や大会・遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。	生徒	80	84.6	106%	3.2	A	部活動に関する申し合わせ事項について教職員で共通理解を図ったが、生徒への周知徹底が不十分であった。	教職員の共通理解を図るとともに、定期的な部活動生徒の代表者会などを行い、周知徹底を図る。	A		
			(15) 街頭指導や自転車点検等の実施を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。	生徒	80	96.9	121%	3.4	A	交通街頭指導を行った。教員が見ているところでは良い状況であるが、見ていないところでの交通違反やマナーの悪さについて苦情が寄せられることがある。	交通違反や事故などの事後指導だけでなく、HRなどを活用した交通指導を行っていく。	A		
			確かな学力の養成	○基礎・基本の定着 ○主体的な学習態度の育成	(16) 各教科と連携して指導方法の研究を行い、教員の指導力向上と教科指導の充実を図る。	教務	80	100	125%	3.5	A	教科主任会において、教科目標・授業改善・新教育課程など様々な内容について意見交換、検討を行い、教科間の連携を図ってきた。また、授業アンケートの実施により授業改善の推進に努めた。授業互見については、コロナ禍の影響で、研究授業実施を十分に推進できず、例年に比べ低調であった。		観点別評価への対応について検討を進める必要がある。大学入試共通テストや新教育課程についてキャリア教育部と連携し、研究を継続する。
	(17) 土曜補習や休日の自習開放を行い、自学自習の意識の高揚と積極的な学習参加の姿勢の醸成を図る。	キャリア教育部			80	93.8	117%	3.4	A	自習開放等については、概ね高い評価を得ている。	引き続き、取り組んでいきたい。	A		
	(18) 3年生の放課後補習を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。	キャリア教育部			80	98.4	123%	3.4	A	3年生の補習等については、概ね高い評価を得ている。	科目のあり方や回数等についても検討をしながら、引き続き取り組んでいきたい。	A		
	(19) 入試制度改革による影響や本年度から始まる新テストに関わる情報を研究・整理し、教職員・生徒・保護者に発信する。	キャリア教育部			80	90.8	114%	3.3	A	情報発信について、一定の評価は得ている。	よりよい情報発信のあり方となるよう、引き続き取り組んでいきたい。	A		
	(20) 3年間を見通した進路指導計画のもと、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	キャリア教育部			80	98.4	123%	3.5	A	土曜講座等について、教員からは一定の評価は得ているが、保護者からはマイナス評価も増えた。会場で土曜講座を実施できなかった影響は大きいものの、Web開催により最低限の発信はできた。	次年度に向けて、土曜講座は会場実施を念頭に計画しつつも、よりよいWeb開催の方法等についても検討する。	A		
	(21) 進路希望調査、PDGセミナー、久徴センディビティなどを行い、キャリア教育に対する意識の高揚に努める。	キャリア教育部			80	96.9	121%	3.4	A	本年度は新型コロナウイルスの影響もあったが、最低限のことは実施することができた。	コロナ禍による影響も考慮に入れつつ、引き続き取り組んでいきたい。	A		
	(22) 個別添削、小論文指導や面接指導を組織的にを行い、進路実現を支援する。	キャリア教育部			80	96.8	121%	3.5	A	多様な生徒に対するきめ細やかな指導については、概ね高い評価を得ている。	引き続き、取り組んでいきたい。	A		
	(23) 各種研修や課題研究などを通してSSH事業と科学系人材・グローバル人材育成のための取り組みの充実を図る。	教育開発			80	96.9	121%	3.4	A	対外的な行事のほとんどが実施できなかったため、校内実施の内容と対外的なプログラムの相乗効果を得ることが難しかったが、オンラインを活用することで補った。	サンタクララ・シンガポール・研究機関・他校SSH等の対外的な交流をオンラインを通じた交流にとどめなく、現状可能な範囲で共同研究等に発展させる足がかりを作る。	A		
	安全対応能力の向上	○危機管理体制の確立 ○危機回避・対応能力の向上	(24) 危機管理マニュアルにより事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。	管理職	80	95.5	119%	3.4	A	文部科学省や島根県教育委員会が示したガイドラインに従い、迅速に適切に新型コロナウイルス感染症に対応した。また、猛暑や暴風雪等の悪天候の際に連やかな指示や対応を行った。	新型コロナウイルス感染症対策を行うことはもちろん、オンライン環境を一層整備し、自然災害や学校事故が発生した際への対応と、生徒の学習環境の充実を図りたい。	A	○世界が初めて経験するコロナ禍に丸ごと対応していた。大ピンチをビッグチャンスに変えようという、全学で共通した精神ができています。	
(25) 学校防災計画を作成し、計画的避難訓練を実施することで生徒・教職員への周知徹底を図る。			総務	80	97	121%	3.4	A	感染症対策により、防災避難訓練を縮小開催せざるを得なかった。	来年度も感染症対策が必要という前提に立ち、効果的な訓練方法を今後検討したい。	A			
(26) 施設設備の安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の確保を図る。			保健	80	98.5	123%	3.7	A	定期的に安全点検を行い、事務室と連携して対応した。	掃除用具の整備など、継続して取り組む。	A			
			保健	80	96.6	121%	3.5	A			A			